

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

諸施策のフォローは？

わが国で「河川に潤いを」という動きが出、近自然河川工法が、さらに生態系をも含めた自然との共生が叫ばれてすでに相当の年月を経た。また、河川法の改正をとおして、河川を扱うにあたっての基本事項として、治水、利水とともに自然環境の保全が謳われてからでも、すでに10年近くが経過した。この間、わが国では、こうした視点での諸施策が多くの河川で実施され、その数も相当なものになっている。当初、わが国に近自然河川工法として欧州の動きを紹介した何人ものヨーロッパの研究者や技術者も、最近では、わが国の斯界の研究や事業の展開の速さに驚いているほどではある。

わが国で実施されたこれらの事業も、はじめのうちはどこに焦点を当てればよいのかさえ定かでなく、ややもすると、企画者の気持ちばかりが先走り、局所的で表面的なものに過ぎなかったときから、生態系の研究者との共同討論などを経るとともに、わが国古来の技術の見直し、新しく加わった地域住民の意見の反映など、河川にかかわる事業の対象とするべき事柄はますます多様かつ広範なものになってきている。しかしながら、生態系をも含む自然環境の保全という視点では、実際に行われる具体的な事業が、将来どのように遷移してゆくのか、まだまだ未知の事柄も多い。

ところで、このように異質なものの関係ということになると、それを扱うよりどころは、「事象の観察、経験」にしかありえない。生態学も、ある意味では、観察の科学の段階にあり、推論の科学にまでは達していないからこそ、今、観察、経験の蓄積とそれについての洞察が一層大切な段階にあると思う。筆者はかつて長良川河口堰の運用に関する議論にかかわったことがあったが、昭和の終わりごろには、全

国のどこにどんな魚道があるかはわかっていても、その魚道での魚の遡上の状態を示す資料はほとんどなかった。当時の技術者は、次々と起こる問題の指摘に対して、「そのようにならないよう誠心誠意努力します」と答えることしかできなかった。技術者としては一番苦しい時代であったといえよう。その後の大規模で本格的な調査、観察の蓄積を経て初めて、まだまだ未知のことは多いとはいえ、良いにつけ、悪いにつけ、ある程度の自信をもった説明ができるようになったことを思い出す。



ところで、河川環境を保全するための調査、施策は大変たくさん行われてはきたが、その個々について、実施の後の経緯がどの程度把握されているだろうか。ある程度の年を重ねた後、当初の目論見のとおりになっているだろうか、他分野の専門家との自然環境、生態系の保全のための共同研究、調査の重要性は言うまでもないが、その一方で、われわれは日常の企画業務に追われ、事業の完成後のフォローを怠ってはいないだろうか。

これまで多くの実施例を積み、また、それがある程度の年月を経てきているからこそ、それらの推移とりわけ失敗例から学ぶべきことも多い。自然の保護に関する知識やノウ・ハウが個々の技術者の頭の中にのみ残されるのではなく、系統的なフォローの情報交換の場はできないか、そしてそこを通じた議論もまた重要になってきていると感じるのである。

河川環境管理財団 研究顧問
高木 不折

<p>【催しもののご案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回(財)河川環境管理財団研究発表会 P2 ・世界子ども水フォーラム・フォローアップ in東京 P2 ・第12回 河川整備基金助成事業成果発表会 P3 ・河川整備基金事業「河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究」成果発表会 P3 <p>【募集しています】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の写真コンク - ル作品募集 P3 ・「河川愛護月間」推進ポスター募集 P3 ・平成17年度 かっぱ天国募集中! P4 ・「水のエッセイ」を募集しています P4 ・河川美化・緑化調査研究助成 P5 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの愛護のつどい P5 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度海外水害緊急調査 P5 (インド洋大津波スリランカ被害調査) ・水辺共生体験館オープン P6 ・北海道エールセンターが開設1周年を迎えました P6 ・第2回 身近な水環境の全国一斉調査 P7 ・霞ヶ浦ふれあい巡視 P7 ・「いけいけチャレンジ! 遠賀川」 P7 ・利根川・水の音コンサート P8 ・平成17年度 第1回河川整備基金運営審議会 P8 ・平成17年度 河川整備基金の事業が決定 P8 ・河川整備基金にご協力ありがとうございます P8 <p>【勉強会・調査研究】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・河川 塾 P9 ・オニバスミチゲーション P9 ・十勝川下流湿地環境再生試験 P9 ・「河川を軸とする森から海への土砂及び栄養の動態」まとまる P10 ・都市水路検討会 P10 <p>【マニュアル・要領】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川・湖沼等における底質ダイオキシン類に関するマニュアル P10 ・花粉症対策マニュアルの試行 P10 ・河川水質調査要領(案) P11 <p>【出版案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書 5つ P11 ・「川の本」夏の号No 59発行 P11
---	---	--

【催しもののご案内】

第3回 (財)河川環境管理財団研究発表会

河川環境総合研究所及び事務所の研究成果を広く周知し、活用していただくため、下記のとおり「第3回河川環境管理財団研究発表会」を開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

期日 平成17年7月21日(木) 10:30~17:50
 場所 砂防会館 別館 1階「淀・信濃」
 千代田区平河町2-7-5 TEL03-3261-8386(代表)
 交通 地下鉄永田町駅(有楽町線・半蔵門線 南北線)4番出口徒歩1分

プログラム

研究発表		
霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急対策工法の検討及びそのモニタリングと評価	研究第4部 主任研究員	小野 諭
烏・神流川における植生管理に関する研究	研究第3部 主任研究員	新清 晃
淀川鶴殿地区ヨシ原の保全・復元	研究第5部(大阪研究所)研究員	習田 義輝
豊川自然再生計画策定に関する検討	名古屋事務所 調査課主任	日比 理智
生物の生息環境と流量変動に関する検討	研究第2部 主任研究員	並木 嘉男
網走湖水質保全対策検討	北海道事務所 管理係長	渡辺 誠

『子どもの水辺』での活動の推進方策に関する検討
 研究第1部 研究員 矢野 克己

河川環境教育の活性化のための方策検討
 研究第1部 研究員 中山 尚
 山本 晃一
 小林 正典

総括・閉会
 財団30年の歩み 専務理事
 記念講演 放送大学学長(当財団河川整備基金運営審議会会長) 丹保 憲仁 氏

問い合わせ 研究第1部 木村 企画調整部 須藤
 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309



湯水、国際紛争、環境問題等)は、21世紀になってさらに危機的状況を深めつつあります。

深刻化する世界の水問題について、国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として、「世界水フォーラム」が、第1回モロッコ(1997)、第2回オランダ(2000)、第3回日本(京都・大阪・滋賀:2003)で開催されました。また、次回第4回はメキシコ(2006.3)で開催される予定です。

その「世界子ども水フォーラム」を引き継ぎ、水問題の解決に向け、日本の子どもたちが自らできることを考え、さらに子どもたちのネットワークを広めていくことを目的として、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」が平成15年10月に広島、平成16年8月に宮城で開催されました。

そして、今までの経験と成果を引き継ぎ、さらに発展することを期待して、第3回目となる「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in東京」を開催します。

この大会では、中学生・高校生の皆さんに「日本から世界に何を発信するか」を議論をしていただく予定です。

開催日時: 2005年9月23日(祝)~25日(日)
 開催場所: 東京都渋谷区 こどもの城 他
 主催: 世界子ども水フォーラム・フォローアップ in東京実行委員会
 共催: (財)河川環境管理財団子どもの水辺サポートセンター
 後援(予定): 文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人全国水環境交流会、川に学ぶ体験活動協議会 他

参加者: 中学生及び高校生など約100名
 備考: 「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in東京」の参加者の中から、代表者数名を「第4回世界水フォーラム(メキシコ)」に派遣する予定です。

(担当: 子どもの水辺サポートセンター)

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in東京

私たちの生活に不可欠な「水」については、さまざまな問題を抱えており、地球規模の課題となっています。世界の水問題(水不足、水質汚染、洪水、

第12回 河川整備基金助成事業成果発表会

平成16年度などの河川整備基金助成事業成果の優秀事業者を対象とした発表会を下記により開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

開催日時：平成17年10月27日(木)・28日(金)
開催場所：砂防会館(千代田区平河町2-7-5)
別館1階 シェーンパツハ・サボ-「利根」

(担当：研究第1部 基金班)

河川整備基金事業

「河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究」成果発表会

河川整備基金の基金事業として、平成15~16年度の2年間にわたり、「河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究」を実施してきました。本研究の成果発表会を下記により開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

開催日時：平成17年11月25日(金) 13:30~17:30
開催場所：発明会館ホール(港区虎ノ門2-9-14)

(担当：研究第2部 並木)

【募集しています】

川の写真コンク-ル作品募集

川の写真コンク-ルは、河川愛護の思想を広く一搬の方々に啓発するため、河川愛護月間の一環として開催され、本年は第25回を迎えました。

皆さんの素晴らしい作品が、数多く寄せられることを期待しています。なお、デジカメでも応募できます。詳細については、<http://www.kasen.or.jp/>をご覧ください。

応募要領

- ・応募資格：関東地方に居住する小中高校生の部、一般の部
- ・サイズ：小中高校生の部 カラー・サビ-ス判(L版)プリント
一般の部 カラーの2L~四切りまでのプリント
- ・締切日：平成17年9月16日(当日消印有効)
- ・応募先：〒102-0071
千代田区飯田橋郵便局留置「川の写真コンク-ル係」
- ・主催：国土交通省関東地方整備局・(財)河川環境管理財団

(担当：東京事務所 石橋)

第24回川の写真コンク-ル入選作品



「笑顔いっぱい」【東京都 秋川】
横井 郁恵
東京都三鷹市立高山小学校 6年



「カニはどこだ?」
【静岡県 源兵衛川】
望月 準子
静岡県日本大学三島高等学校 1年

「河川愛護月間」 推進ポスター募集



1. 趣旨

本年度より新たに使用している河川愛護月間の標語「川が好き 川にうつつた 空も好き」は、平成16年度に募集し最優秀賞を受賞された山口県の中学生の作品です。

この標語の思いを生かし、かつ河川愛護の意識がより高まることを目的に、本年度は、次世代を担う全国の小中学生・高校生から本月間の標語をテーマにしたポスター作品を広く募集します。なお、本年度に応募された作品のうち、優秀な作品を来年度の河川愛護月間の推進ポスターに採用する予定ですので、多数の応募をお待ちしています。

2. 応募方法

- ①募集内容：本月間の推進標語「川が好き 川にうつつた 空も好き」を組み入れたポスターを作成して下さい。標語のデザイン・彩色・画材は自由です。(ただし、写真を除く。)
- ②応募資格：全国の小学生・中学生・高校生(一人一作品とします)
- ③サイズ：四つ切り画用紙まで(縦書き)
- ④応募方法：作品の裏に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・学校名・学年及び作品の趣旨又は河川愛護への思い(100字以内)を記入の上、郵送して下さい。
- ⑤応募期間：平成17年9月22日(木)まで
- ⑥応募上の注意
 - ・応募作品の使用・著作権は、国土交通省に帰属します
 - ・応募は、未発表のオリジナル作品に限ります。
 - ・応募作品は、返却致しません。

3. 審査員：審査員は、水環境の専門家、マスコミ関係者、美術の専門家等で構成する予定です。

4. 発表方法：10月に決定後、入賞者には直接通知するとともに、機関誌等に掲載します。

5. 作品使用：優秀作品は、平成16年度「河川愛護月間」のポスター、チラシ等で使用するほか、「河川愛護月間」の推進に幅広く活用します。

- 6. 賞 : 最優秀賞 1点、優秀賞 4点、優良賞 4点
- 7. 表彰 : 主催者である国土交通省から賞状を、協賛団体から副賞を贈呈します。
(担当: 総務部)

送付先 〒100-8918
 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3
 国土交通省河川局治水課内
 「河川愛護月間」推進ポスター募集係行
 問い合わせ先
 国土交通省河川局治水課総務係
 03-5253-8111 (内線 35523)
 詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/river/index.htm> まで

- 1) 募集対象: どなたでも(子どもの応募も大歓迎です。)
 - 2) 募集内容
 河川や沼・池等の水辺で子どもたちが日常遊んでいる「状況の写真場所の情報(県 市 地先の 川)及び一言コメント
 (例: 遊び方、遊んでいる人数、水質の状態など)
 - 3) 締め切り
 第1回目締切: 6月30日(終了)、第2回目締切: 8月31日(水)
 第3回目締切: 9月30日(金) 郵送の場合は当日の消印有効
 - 4) 写真の活用
 応募していただいた写真は当センターのホームページ等に、できる限り多く(少なくとも1人1点以上)掲載させていただきます。また、著作権は応募者と当財団に帰属し、パンフレット等に使用することもあります。
 - 5) 景品の例
 第1回目締切分の景品: ファーストエイドキット 5名程度
 ライフジャケット(子ども用) 10名程度
- 応募者全員に参加賞をお送りします。
 【応募方法等、詳しくは下記ホームページをご覧ください】
http://www.mizube-support-center.org/project/2005/pro2005_01_1.ht

平成17年度 かつば天国募集中!

(担当: 研究第1部、子どもの水辺サポートセンター)



島根県仁多郡横田町
大馬木地内の砂田川



東京都清瀬市中里2丁目
地先の空堀川



長野県下伊那郡喬木村
矢筈 小川川

水辺から子どもたちの賑わいが失われて久しいと言われています。だが、日本には子どもたちが遊べるような素晴らしい河川や沼・池等の水辺がたくさん残っています。

子どもの水辺サポートセンターでは、今年もそういった子どもたちが遊べるような素晴らしい水辺(かつば天国)を募集しています。

是非、その水辺で、子どもたちが元気いっぱい遊んでいる写真と、その場所の情報をお送り下さい。当センターで皆さんのご自慢の水辺をより多くの人に知ってもらえるようPRしていきます。

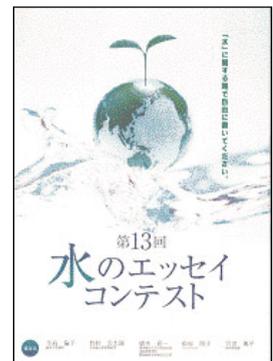
「水のエッセイ」を募集しています

次世代を担う高校生に「水がもたらす恵みの大きさ、水の大切さを考えてもらい、水に対して深い思いを持ち続けてほしい」との願いから、平成5年に始まった「水のエッセイコンテスト」は、全国高等学校国語教育研究連合会の後援のもと、今年で13回目を迎えました。

昨年度も、全国203校から10,048名の応募があり、毎年1万人以上から素晴らしい作品が寄せられています。

幼いころの水遊びの思い出、川や湖へ寄せる思い、水に係わる環境問題などなど...、「水」に関する題で、「感性に溢れたエッセイ」をお寄せください。

- 応募資格
 高等学校生徒
- 締め切り
 2005年9月20日
 (当日消印有効)
- 応募先
 〒101-0065
 千代田区西神田 1-3-6
 「水のエッセイコンテスト」
 実行委員会係
 問合せ先
 (03)3292-3588



また当財団から、水のエッセイコンテストの参考図書として、「私たちと水」を発刊していますので、ご希望の方は担当までご連絡ください。

(無料配布 ただし送料は各自負担)
 (担当: 研究第1部 環境教育班 大西)

河川美化・緑化調査研究助成 —平成17年度スケジュール—

この助成は、golferからの募金を原資とする、河川美化・緑化調査研究費によって、全国の大学および研究機関の個人またはグループの研究者を対象としています。昭和6年度に開始し、今年度で第20回になり、これまでに合計126件の助成を行いました。

今年も、7月初めに募集要項の配布と受付を開始し、9月末日に締切る予定です。

助成の対象となる調査研究は、次の3分野です。

- (イ) 河川に関係した、良好な水辺を形成する計画技術に関する分野
- (ロ) 河川に関係した、植物管理に関する分野
- (ハ) 河川の美化・緑化（河川景観を含む）および保全に関する分野

『調査研究助成審査委員会（11～12月頃開催）』で助成事業が決定されます。研究期間は、1年間または2年間とし、毎年1月から12月までとなっています。

関連情報については、ホームページをご覧ください。

www.kasen.or.jp/kihu/annai/green/green.htm

（担当：企画調整部 桑原）

【報告事項】

「みどりの愛護」のつどい



第16回全国「みどりの愛護」のつどいが4月23日（土）、皇太子殿下を迎えて、国営淀川河川公園（枚方地区・大塚地区）で開かれました。

全国の都市緑化活動関係者約1500人が参加し、緑を護り育てていく思いを新たにしました。皇太子殿下は式典で「緑豊かで快適な環境づくりが一層、発展することを願います」とあいさつ。地元の小中学生が淀川のヨシで笛づくりする様子を興味深そうにご覧になり、ヤマザクラの記念植樹もされました。

主催：国土交通省、大阪府、大阪市、高槻市、枚方市、
（財）公園緑地管理財団、（財）河川環境管理財団

（担当：大阪事務所）

平成16年度海外水害緊急調査 （インド洋大津波スリランカ被害調査）

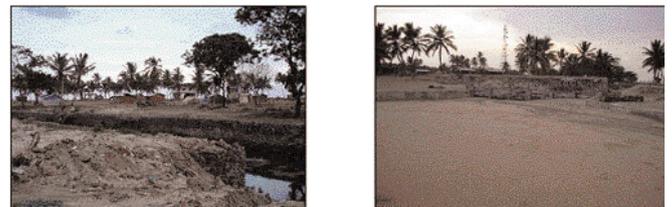
現地状況（2005.4～5）



スリランカ南東部のヤラ国立公園（倒壊した柱の上のテラスで食事していた日本人観光客が津波に飲み込まれた。ここでは日本人12人が死亡、2名は現在も行方不明である。また、国内の経済状況に加え、被災場所がプライベートビーチであること等から、復旧に向けた取り組みは未着手の状況である。）



津波被災後に設置された津波避難情報の掲示



南海岸地帯の東部に位置するハンバントタの町（海岸沿いの建物は全壊の状況の中で、仮設住宅が点々と並ぶ。町の中央部を流れる河川水路の河口部は、津波により押し上げられた砂により閉塞している。今回の調査で確認した河口の多くは閉塞されていた。）

1. 海外水害緊急調査の目的・概要

（財）河川環境管理財団では、海外で洪水等により甚大な被害が発生した場合、今後のわが国の川づくりや河川管理等の推進に資することを目的として、当財団が所管する河川整備基金の基金事業の一環として、緊急的な水害調査を実施しています。

調査は、毎年度（社）土木学会に委託し、（社）土木学会が主体的に実施しています。

2. インド洋大津波スリランカ被害調査の目的と内容

平成16年度は、12月に沿岸各国で甚大な被害が発生した、スマトラ沖地震津波の被害調査を実施しました。調査地域としては、地震動の影響の少ないスリランカ国を選定しました。

調査は、（社）土木学会の水工学委員会と海岸工学委員会の合同により実施され、河川における津波の遡上実態および津波による河川横断構造物等の被害実態や、河口域を含む海岸における環境変化と海岸構造物の津波力軽減効果についての緊急調査が実施され、それらの実態を明らかにするものとなりました。また、調査に基づき、今後の河川・海岸に関する津

波対策を検討・提案するものとなりました。

3. 調査時期と調査メンバー

平成17年3月の事前調査の後、4～5月にかけて本格調査が行われました。

調査団メンバーは以下の通りです（順不同、敬称略）。

1) 水工学委員会関係メンバー（7名）

長谷川和義 北海道大学大学院工学研究科教授
 田中 仁 東北大学大学院工学研究科教授（調査団団長）
 中川 一 京都大学防災研究所付属災害観測実験センター長、教授
 松永信博 九州大学大学院総合理工学府教授
 石野和男 大成建設（株）技術センター土木技術研究所
 Bandara Nawarathna 京都大学防災研究所 PD
 大手俊治 (財)河川環境管理財団研究第三部 主任研究員

2) 海岸工学委員会関係メンバー（8名）

山本吉道 東海大学工学部教授
 鯉淵幸生 東京大学大学院工学系研究科講師
 水谷法美 名古屋大学工学部教授（調査団副団長）
 川崎浩司 名古屋大学大学院
 池谷 毅 鹿島建設株式会社
 福濱方哉 国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長
 高梨弘晃 東海大学工学部土木工学科
 義光 (財)河川環境管理財団研究第二部 次長

4. 調査報告について

報告書がとりまとめられた後、報告会の開催などについて、土木学会と調整を図る予定です。

（担当：研究第2部 裏、研究第3部 大手）

水辺共生体験館オープン



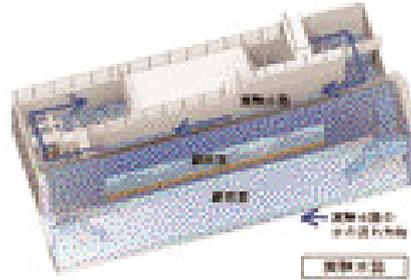
岐阜県各務原市にある河川環境楽園内に国土交通省水辺共生体験館がオープンしました。水辺共生体験館は、河川環境の保全・復元を進めていくために必要となる知識をより多くの人々に学んでもらうこと、及び河川環境に関する情報の収集・発信を通じて河川環境保全に貢献することを目的としています。

主な展示施設としては、模型や映像を使って上、中、下流の流れごとに河川環境を勉強する流程展示エリアや、川に関する実験プログラムを体験することにより、河川環境の基礎的な知識を勉強することができるワークショップエリアなどがあります。

また、長さ25m、幅5mの環流式実験水路では、魚の遊泳行動や魚道の機能などの実験を水路側面に設置している観察窓から観察することができます。

ホームページ <http://www.taikenkan.go.jp>

（担当：名古屋事務所）



北海道エールセンターが開設1周年を迎えました



『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』の更なる推進を図ることを目的に、北海道地域の拠点となる「子どもの水辺北海道地域拠点センター（呼称：北海道エールセンター）」が平成16年4月、帯広市の十勝川と札内川、帯広川の合流点にある「治水の森」公園内に開設してから1周年を迎えました。

この1年間に、地域の小・中学生を中心にたくさんの方々に利活用していただき、延べ利用者数は7,855人（3月末日現在）となりました。

当財団としては、これからも「北海道エールセンター」が「子どもの水辺サポートセンター」と連携を図り、環境学習や体験活動の情報・活動拠点として利活用していただけるよう、各種サービスの充実に努めていきたいと考えています。

また、このような取り組みを、他の地域への展開（「子どもの水辺サポートセンター」の地域拠点システム）についても、財団として検討していきたいと考えています。



北海道エールセンター前の札内川でのカヌー体験

北海道エールセンターの平成16年4月～17年3月の利活用状況

区 分	利用者数	内小学生	内中学生	備 考
一般来館者	2,969	1,399(子供)		
施設見学・視察者	778	485	0	42団体
施設利用(会議室等)	805	0	0	48団体
環境学習・体験活動	3,303	1,438	1,056	67団体
環境学習	2,773	1,370	1,056	
体験活動	283	68	0	
講習会・研修会	197	0	0	
その他	50	0	0	
合 計	7,855			

※一般来館者の内、子供については小・中学生の分類ができないので子供としている。

(担当：研究第1部、北海道事務所)

第2回身近な水環境の全国一斉調査



東京都日野市：浅川にて

近年、河川をはじめとする身近な水環境に対する市民意識の高まりを受け、全国各地で多くの市民団体や学校の子どもたちによる水質調査が行われています。

しかし、これらの調査方法や項目などが統一されていなかったことから、調査結果に整合性を持たせ、有効活用を可能にすることを目的として、「全国水環境マップ実行委員会」がH164月に設立され、だれもが簡単に調査できるパックテストを用いた統一的水質調査方法が確立されました。昨年度は、この方法による第1回目の「身近な水環境の全国一斉調査」が行われました。

今年度も引き続き、去る6月5日(日)を実施日の中心として、第2回目の全国一斉調査が実施されました。前日の雨にもかかわらず、全国各地で約1,000団体の人々が河川を中心とした身近な水辺(約580地点)において調査を実施しました。現在、得られた調査結果を集計・整理中であり、8月に開催される「水環境フェア2005in岐阜」にて速報値を発表し、今年度末を目途に、全国の調査結果を地図上に示した「水環境マップ」を作成し、全国の調査参加団体等と情報の共有化を図る予定です。

今後も全国一斉調査を継続することにより、水環境の保全などに対する市民の理解と関心がさらに高まることで、地域の河川を中心とした活動に発展することが期待されます。(担当：研究第1部 環境教育班)

霞ヶ浦ふれあい巡視

霞ヶ浦流域には、約100万人の人々が霞ヶ浦からの恩恵を受けて生活をしています。このかけがえのない霞ヶ浦を、みんなでもっと良く知り、みんな

もっと考え、将来の子供たちのために、地域の財産として受け継いで行かなくてはなりません。このため、霞ヶ浦意見交換会の一環として、地域の方々と行政担当者などが霞ヶ浦湖岸をとともに巡視し、現地において意見交換・情報交換を行いました。その後、参加者に各巡視ポイント毎及び全体について、アンケート調査を実施したものです。

この「霞ヶ浦ふれあい巡視」は、第1(H167.17～第6回(H175.15)まで、土浦市を始め麻生町・潮来市・銚子町・波崎町・玉造町の沿川自治体で開催しました。

今年度は5月に1回実施し、地域の方々の他、「白さぎの会」、「かいつむりの会」、「玉里東小学校エコクラブ」等の方々が参加され、貴重なご意見・情報を頂きました。

今年度も、昨年と同様に年5回程度の開催を予定し、霞ヶ浦について意識の高い人、霞ヶ浦を活動の場としている団体の方々を中心に行う予定です。

(担当：研究第4部)



「いけいけチャレンジ! 遠賀川」

平成17年3月5日、福岡県直方市において、小中学校による、遠賀川流域における川を題材とした発表会「いけいけチャレンジ! 遠賀川」が開催され、上流域～下流域の7つの学校が参加しました。



学習発表会の様子

発表会では、「川を守るために自分たちができること」「遠賀川で楽しんだよ!」などのテーマのもと、人形劇や実験など、バラエティに富んだ発表が行われました。この発表会で特徴的だったことは、発表に対して子どもたちが率先して質問し、また、途中休憩時には、学習内容について他の学校と話し合うなど、子どもたちが自ら学び、自ら行動することが実践されたことです。保護者からの評判も大変よく、川での学習効果が発揮された発表会であったと思います。今後も継続して開催されることが期待されます。(担当：研究第1部)

利根川・水の音コンサート

平成17年3月に、埼玉県栗橋町において、利根川上流～中流域における河川を題材とした環境学習を支援・推進していく組織として「利根川上流河川学習連絡会（会長：斉藤栗橋町長）」が設立され、第1回連絡会が開催されました。連絡会では、利根川沿川の5県や市町村が連携して河川環境学習に取り組んでいくことが確認されました。



水の音コンサートの様子

また、連絡会終了後、栗橋小学校の生徒を招待した「水音の旅詩コンサート」が開催されました。

このコンサートでは、まず、利根川の水の音が紹介されました。この水の音は、利根川の水源地（群馬県水上町）から河口（千葉県銚子市、茨城県波崎町）までの間約322kmの中から、主要な場所18地点で、川の聴診器（水中マイク）を用いて録音されたものです。

次にその水の音にシンセサイザーによる楽曲を加えた音楽を、作曲家の小久保先生が生演奏で披露されました。シンセサイザーの音楽と水の音が見事に融合し、雄大な利根川の情景が感じられ、子どもたちは熱心に聞き入っていました。

この水の音と音楽はCD化され、利根川沿川の小学校等に配布される予定です。

（担当：研究第1部 環境教育班）

平成17年度 第1回河川整備基金運営審議会

財河川環境管理財団は、河川整備基金について、河川整備基金運営審議会（会長：丹保憲仁 放送大学学長）を年2回開催し、広く識者のご意見を踏まえながら運営することとしています。

このたび、平成17年度第1回河川整備基金運営審議会が開催され、平成16年度河川整備基金の事業報告と、17年度の同事業計画の審議が行われましたので、その結果についてご報告致します。

1. 開催日時：平成17年5月24日（火）15～17時
2. 場所：砂防会館（東京都千代田区永田町）
3. 出席委員：（本人出席委員のみ記載、敬称略、順不同）
井上和也（京都大学名誉教授）会長代理
安藤忠雄（建築家、東京大学特別名誉教授）
桜井敬子（学習院大学法学部教授）
清治真人（国土交通省河川局長）
野中一二三（全国町村会副会長、京都府園部町長）
山岸 哲（山階鳥類研究所所長）
山本和夫（東京大学教授、同環境安全研究センター所長）
4. 議事：
（1）平成16年度河川整備基金事業並びに収支決算の報告
（2）平成17年度河川整備基金事業並びに収支予算の審議
5. 頂いた主なご意見
・16年度事業及び収支決算報告について承認し、17年度事業及び収支予算について原案のとおり可決する。
・当基金助成事業の調査・試験・研究部門において、基礎的な研究に取り組んでいる点を評価する。

- ・当基金助成事業の調査・試験・研究部門において、「地球環境の保全」に寄与するような助成事業の応募が増えるよう努力をして欲しい。
- ・当基金を活用し、学校の先生方も河川を活かした環境教育活動手法を学ぶことができるよう努めて欲しい。
- ・当基金助成事業に加え、（財）河川環境管理財団として、第4回世界水フォーラム（2006年3月メキシコにて開催予定）への参加・協力を検討して頂きたい。
- ・（財）河川環境管理財団のホームページに、子ども達を対象とし、子ども達が学べるコーナーを作るべき。

参考

- （1）河川整備基金の事業内容については、下記ページをご覧ください。
<http://www.kasen.or.jp/kihu/annai/fund.html>
- （2）河川整備基金運営審議会については、下記ページをご覧ください。
<http://www.kasen.or.jp/shingikai/shingikainituite.htm>
- （3）平成17年度の河川整備基金助成事業については、下記ページをご覧ください。
<http://www2.loopsnet.jp/kasen/jyosei17yousiki/h17.html>

（担当： 研究第1部 基金班）

平成17年度 河川整備基金の事業が決定

平成17年度河川整備基金の助成事業、基金事業については、去る5月24日の河川整備基金運営審議会、翌25日の理事会の審議等を経て決定しました。

助成事業は、過去最高となる1038件の応募のなかから、514件（4億9千2百万円）が採択されました。また、基金事業は、1億4千5百万円で決定されました。

助成事業、基金事業の概要は下記のとおりです。

1. 助成事業	514件	492,000千円
1) 調査・試験・研究	107件	152,770
(1) 指定課題助成	7件	18,490
(2) 一般的助成	100件	134,280
一般的調査・研究	100件	129,280
緊急調査（追加募集）		5,000
2) 環境整備対策	4件	1,430
3) 国民的啓発運動	403件	337,800
一般的助成	359件	317,085
(359件の内「総合的な学習時間における河川を題材とした活動」	219件	21,640千円
継続的助成	44件	20,715
2. 基金事業		145,000千円
1) 調査研究		45,000千円
2) 河川ライブラリー		40,000千円
3) 河川環境教育の推進		27,000千円
4) 河川整備推進啓発事業		33,000千円

平成17年度助成事業の採択事業の詳細は、

ホームページ（<http://www.kasen.or.jp/>）をご覧ください。

担当 研究第1部 基金班）

河川整備基金にご協力ありがとうございます — 300億円をめざして達成を続けています。 —

お陰様で、河川整備基金は、平成17年1月から6月までに約2千8百万円余のご寄附を頂き、6月末で約280億7千万円となっています。これも一重に皆様方のご協力の賜と感謝しております。この基金は、皆様のご理解、ご協力を得て300億円をめざしています。今後ともご協力をお願い申し上げます。

イベント等で募金箱が必要となるときは、当財団にお申し付け頂ければお送りさせていただきます。なお、募金箱の回収及び寄付金につきましては、当財団から回収に伺うか又は振込用紙を送付させていただきます。

（担当：総務部）

【勉強会・調査研究】

河川塾

【設置の目的】

河川環境管理財団は、河川管理、河川構造物の安全性評価、河川整備計画、河川環境管理計画等の検討・策定にあたって、河川環境特性情報集を編集し、それを読み解くことにより業務を遂行している。そのためには、沖積河川に関する基本的な知識が必要である。しかしながら、大学専門教育の中で、沖積河川の種々の特徴・特性について教育していないこともあり、技術者の基盤的知識となっておらず、情報を読み解かず種々の問題が発生している。すなわち、種々の関連情報の相互関係が理解できない。また、間違いに気づかない。

そこで、財団関連職員を対象に「河川塾」を開催し、知見の共有化と高度化を図り、財団の技術力を高めようとするものがある。

【運営方針】

- 塾の位置づけ：財団職員の技術教育として位置づける
- 塾長：河川環境総合研究所長 山本晃一
- 開催：毎週月曜日 18時から2時間程度1年間程度を予定
- 入塾・退塾：塾長が判断する
- テキスト：構造沖積河川学（著者：塾長、山海堂出版）を軸として関連文書・文献
- 教育方針：レクチャー形式とせず、ゼミナール形式とする。構造沖積河川学の各章を、塾生が交代で話す。その際、既存の一般的な知見（既存の理論）との差異があれば、どうしてなのか自己の意見をいう。その後、塾長・塾生からの質疑等を受け議論する。さらに、話題の内容が情報集（河川技術）のどの部分を読み解くのに役立つのか議論する。議論が煮詰まらなければ、全塾生の宿題とする。
- 事務局長：河川環境総合研究所 研究第3部長 小林 豊

（担当：研究第3部）

オニバス・ミティゲーション

オニバスはスイレン科に属し、やや富栄養化した湖沼、ため池、河川などに生育する一年生の浮葉植物で、国、茨城県の絶滅危惧種に選定されています。

老朽化に伴う矢作樋管（茨城県坂東市）の改築計画予定地となっている矢作湿地には、この絶滅のおそれのあるオニバスが生育していて、改築にあたっては、本種の保全を図る必要があります。

そこで、当該湿地に生育するオニバスの生育状況を確認するため、平成15年度からモニタリング調査を実施しています。

平成17年度は、矢作樋管改築に伴うオニバスのミティゲーションの可能性を検討する試験として「底泥の播き出し試験」、「コンテナ等容器を用いた発芽試験」、また、矢作湿地でのオニバス生育維持作

業として、開放水面確保のための高茎抽水植物の根茎除去と底泥攪乱作業を実施しました。さらに当該湿地での「環境モニタリング調査」も継続して実施していく方針です。

今後は、矢作樋管周辺環境調査検討懇談会を通じ、オニバスの生態的特性を踏まえたミティゲーションの可能性の検討を進めるとともに、樋管改築に向けた恒久的な代償地を確保し、ミティゲーション実施後のモニタリングを進めていく予定です。

（担当：研究第4部）



底泥の播き出し作業（06.04.26）



オニバス葉のサイズの計測（06.06.15）

十勝川下流湿地環境再生試験

十勝川下流トイトッキ地区では、平成16年度から湿地環境とその環境に生息する生物の再生を目的に、中水敷を掘削し、試験的に沼を造成する試みが行われています。



一部試験工事後の様子

本試験を行うにあたっては、あらかじめ学識経験者の意見を参考に、近傍に生息し、かつ原生の自然環境に近い環境を必要条件とする生物の中から、昆虫類ではオオコオイムシなど5種、植物ではヨシイワノガリヤス群集など、鳥類ではヒシクイ（天然記念物、環境省RDB（2002）絶滅危惧I類、北海道RDB（2001）希少種）を目標種と設定しました。

この十勝川下流域は、ヒシクイの渡りの中継地として重要な位置となっていることなど、これらの自然環境の保全という観点から選定しました。そして、このヒシクイの目標調査個体数については、十勝川下流域に存在する河跡湖への飛来数の調査結果から、「採餌・休息に利用する10個体以上」と数値目標を設定しました。

今後はこれらの生息状況などのモニタリングなど、湿地環境の再生について必要な調査を行っていく予定です。

なお、本地区は北海道で唯一のヒシモドキ「環境省RDB（2000）絶滅危惧A類」の確認地区であり、移植実験も行う予定です。

（担当：北海道事務所）

「河川を軸とする森から海への土砂及び栄養塩類の動態」まとまる

河川を軸として、森から海まで移動する土砂、および土砂とともに移動する栄養塩類の物質循環と、生態系の健全さに関する調査を実施するとともに、流域・河川・海域において、栄養塩類に係わる良好な生態系の保全・構築に資することを目的として、河川局、都市・地域整備局下水道部、農林水産省林野庁・水産庁の連携による調査が実施されました。

この一環として、「栄養塩類に着目した森・川・海の土砂移動に関する検討会」（座長：高知大学大学院 高橋正征教授）が設置され、土砂、および栄養塩類の性状、挙動、および生物との相互作用について総合的なとりまとめが行われるとともに、今後実施すべき施策に関する提案がなされました。

（担当：研究第2部）



栄養塩類に着目した森・川・海の土砂移動に関する検討会調査結果に基づく土砂及び栄養塩類の流れ

都市水路検討会

都市における水路は、まちづくりの中で重要であり、水と緑の潤いのあるオープンスペースとして、貴重な自然空間を形成する機能、周辺と一体となって魅力的でにぎわいのある空間を創出する機能、あるいは災害時の防災機能など、多面的な機能を有しています。

河川局、および都市・地域整備局下水道部と連携して設置された都市水路検討会において、都市における水路のもつ役割を再評価し、最も関係の深い河川と下水道を中心に、まちづくりと一体となって都市の水路を保全・再生・創出するための方策について検討が行われました。

検討会の中間とりまとめとして、都市の水路の保全・再生・創出に向けた提言「懐かしい未来へ～都市をうるおす水のみち～」がとりまとめられまし

た。都市水路の整備を全国的に展開していくためには、ご提言を踏まえて、今後、積極的な地域の取り組みを支援する過程で、諸課題の解決方策を検討することが求められています。

（担当：研究第2部）

【マニュアル・要領】

河川・湖沼等における底質ダイオキシン類に関するマニュアル

平成17年3月に、河川・湖沼等におけるダイオキシン類に関する3件のマニュアル(案)がとりまとめられました。

① ダイオキシン類調査における品質管理マニュアル(案)

河川局においては、河川や湖沼等においてダイオキシン類調査を実施していますが、ダイオキシン類の分析は特に専門的であり、また、その結果が社会に与える影響も大きいことなどから、ダイオキシン類精度管理委員会を設置して検討してきました。この度、本委員会の指導のもとに、品質管理の手法や、これまでに得られた知見をとりまとめ、品質管理マニュアル(案)が作成されました。本マニュアル(案)では、ダイオキシン類の分析に当たって、確認すべき事項、留意すべき事項をとりまとめたほか、分析結果の報告の際に、必要な書類や様式の統一を図りました。今後、各地方整備局が実施するダイオキシン類の調査において適用することとしています。

② 河川、湖沼等における底質ダイオキシン類対策マニュアル(案)

本マニュアル(案)は、河川・湖沼等における底質ダイオキシン類対策を安全かつ的確に実施するために、平成15年6月に策定されました。「河川、湖沼底質中のダイオキシン類簡易測定マニュアル(案)」が平成16年7月に策定されたことを受けて、この度、ダイオキシン類の汚染範囲調査における簡易測定に関する改訂が行われました。

③ 河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル(案)

本マニュアル(案)は平成15年6月に策定され、ダイオキシン類の常時監視を行う際の調査方針や、標準的な監視手法について示したのですが、品質管理マニュアルの策定、およびJISの改訂に合わせてこの度改訂されました。また、水質及び底質の調査地点について所要の見直しが行われました。

（担当：研究第2部）

イネ科花粉症対策マニュアルの試行

江戸川の堤防には、ネズミホソムギを中心とする寒地型の外来牧草が広く分布しています。

ネズミホソムギの花粉は、強いアレルギー症状を引き起こすことが知られています。江戸川沿川では、小中学校の児童・生徒の集団発症や、沿川住民

から対策の要望等が寄せられるなど、堤防管理上の課題となっています。わが国における花粉症は、スギによるものが中心であり、これまでネズミホソムギを含む「イネ科花粉症」については、その存在は知られていなかったものの、研究は進んでいませんでした。

これらの状況を踏まえ、平成15年2月「堤防植生花粉症対策調査検討委員会」（座長：山本晃一河川環境総合研究所長）を設置し、江戸川をモデルに花粉症飛散状況の実態把握、及び対策方法の検討を3ヶ年かけて行いました。

堤防維持管理に関する市民からの苦情・要望を整理して、花粉症被害の現状を把握するとともに、河川利用者へのアンケート調査により、花粉症被害の現状を整理し、花粉症原因植物の生態を把握することで、江戸川における花粉対策の対象植物の絞り込み、花粉飛散時期・時間帯・距離など、花粉の飛散特性について調査を実施しました。

上記検討により得られた花粉症原因植物の生態的特性から、花粉対策方法として、花粉飛散抑制と花粉症原因植物除去に着目して、4種類の現地試験を実施しました。

これまでの検討結果をもとに、河川堤防におけるイネ科花粉症の対策に配慮した堤防除草を実施するための手引き（案）を作成した。手引き（案）は裏付けデータ等を掲載した本編と、除草業者等が簡単に内容を理解し、現場で利用できるチェックリストの2種類作成しました。今後は、現地において本手引きに沿った除草を試行し、施工上の問題がないか、また、イネ科花粉の抑制という目的が達成できたかどうか追跡する予定です。

（担当：研究第4部）



イネ科花粉症の原因植物「外来牧草ネズミホソムギ」

河川水質調査要領（案）

河川管理者が行う河川水質調査等は、水質汚濁防止法の規定に基づいたこれまでの水質調査に加えて、これからの河川水質管理の視点にたち、合理的かつ有効に活用できる調査のあり方の見直しが必要とされています。このようなことを背景として、平成17年3月にとりまとめられた「河川水質調査要領（案）」においては、河川状況の把握、および水環境改善のための事業計画策定と実施、その効果把握を目的として、河川管理者が河川水質管理のために

行う河川・湖沼・地水の水質調査、および河川底質調査等の考え方が詳細に記述されました。また、「今後の水質管理の指標について（案）」が策定されたことを踏まえ、住民との協働の内容も追加されました。

（担当：研究第2部）

【出版案内】

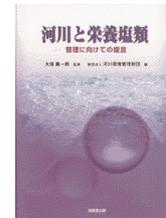
河川と栄養塩類 - 管理に向けての提言 -

監修 大垣 眞一郎 [東京大学大学院工学系研究科教授]

編者 (財)河川環境管理財団

発行者 技報堂出版(株)

定価 3,990円



変革と水の21世紀

監修 丹保恵仁 [放送大学学長]

編著 21世紀の社会システム、国土管理のあり方に関する研究会

(財)河川環境管理財団

発行者 (株)山海堂

定価 2,940円



河川砂防工事における

木材活用法ガイドブック(案)

CD-ROM付き

編著 (財)河川環境管理財団

発行者 (株)山海堂

定価 6,090円



構造沖積河川学

- その構造特性と動態 -

著者 山本 晃一

[河川環境総合研究所長]

発行者 (株)山海堂

定価 9,450円



海辺に親しむ ~ 海岸を知り、楽しむためのガイドブック ~

監修 (財)河川環境管理財団

編著 「海辺に親しむ」編集委員会

発行者 (株)山海堂

定価 2,310円



(図書の注文先)

技報堂出版(株) 営業部

〒102-0075 東京都千代田区三番町8-7

第2興和ビル

TEL 03-5215-3165 FAX 03-5215-3233

(株)山海堂 営業部

〒113-8430 東京都文京区本郷5-5-18

TEL 03-3816-1618

FAX 03-3816-0553

(担当：企画調整部)

「川の本」夏の号No59発行

小学生を対象として、河川の美化・愛護の普及啓発を図るため定期的に発行し、各種広報活動、教材等に利用していただいている「川の本」夏の号No59を6月下旬に発行しました。

内容は、川に関する知識を学ぶページ「川のピオトープ」、親水のすすめのページ「夏の川で遊ぼう」、それに地域の民話「川にまつわるお話し」を掲載しています。

(担当：企画調整部)

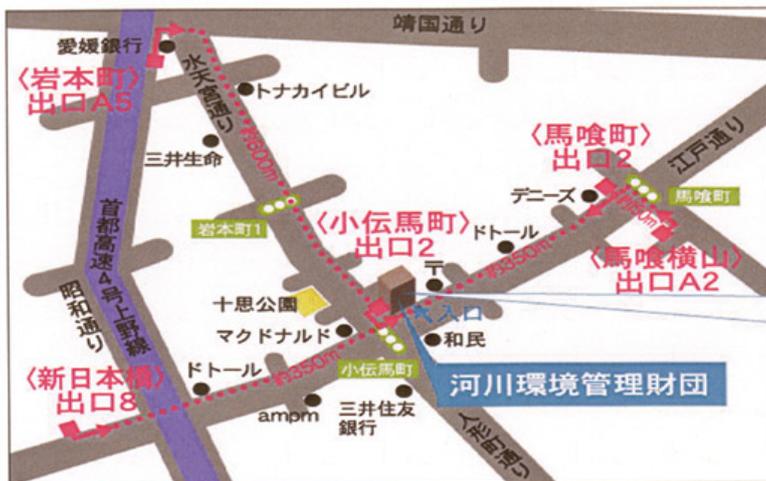
財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。
今後ともよろしくお願い致します。

理事長	鈴木 藤一郎
専務理事	小林 正典
常務理事	池田 東雄
常務理事	山本 雅史
理事	花見 忱
研究顧問	吉川 秀夫
研究顧問	芦田 和男
研究顧問	村本 嘉雄
研究顧問	山口 甲
研究顧問	高木 不折
研究嘱託	中島 秀雄

河川環境総合研究所長	山本 晃一
技術参与	佐藤 和明
総務部長(兼)	池田 東雄
企画調整部長(兼)	小林 正典
研究第1部長	入江 靖
研究第2部長	阿部 徹
研究第3部長	小林 豊
研究第4部長	戸谷 英雄
大阪研究所長(兼)	村本 嘉雄
研究第5部長(大阪研究部長)	持田 亮
子どもの水辺サポートセンター長(兼)	山本 雅史
東京事務所長(兼)	戸谷 英雄
北海道事務所長	金子 雅美
名古屋事務所長	奥田 一巳
大阪事務所長	田村 公一

新事務所案内図(本部事務所は7月4日に移転しました)



地下鉄日比谷線「小伝馬町駅」より徒歩0分 都営新宿線「岩本町駅」より徒歩約8分 都営新宿線「馬喰横山駅」より徒歩約7分
JR横須賀・総武線「新日本橋駅」より徒歩約5分 JR横須賀・総武線「馬喰町駅」より徒歩約5分

編集
発行



財団法人 河川環境管理財団

集事務局 企画調整部 担当:堀江

E-mail: horie-t@kasen.or.jp

本部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F, 3F)
http://www.kasen.or.jp/
Email: info@kasen.or.jp

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
http://www.kasen.or.jp/hokkaido/
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308
企画調整部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308
研究第一部 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309
研究第二部 TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309
研究第三部 TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310
研究第四部 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
子どもの水辺サポートセンター
TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314
http://www.mizube-support-center.org/
E-mail: msc@mizube-support-center.org

名古屋事務所 〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-3-10
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627
http://www.kasen.or.jp/nagoya/
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095
http://www2.kasen.or.jp/
E-mail: kohon@osakaj.kasen.or.jp

大阪研究所 〒540-0008
大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp